

# ANAグループのCSR

企業における非財務面での取り組みに近年内外の注目が高まっています。企業の社会的責任としては、事業活動における社会や地球環境に対する姿勢が企業評価のひとつとして定着しつつあります。そこで、ANAグループにおけるCSRの捉え方について、長瀬常務取締役執行役員にインタビューしました。

## 航空運送事業を担うANAグループのCSRとは？

**長瀬** ANAグループでは、年間でおよそ5,000万人のおお客様にご搭乗いただいております。もはや航空運送事業は、地域間、あるいは国際間の交流に欠かすことのできない社会的基盤(インフラ)です。

確実で快適な運航を続け皆様からの信頼に応えることが公共輸送機関としての社会的使命であり、ビジネス、文化、教育、観光など様々な分野での交流のお手伝いをする事で、より良い社会の実現に役立てればと思っております。ご高齢の方、おからだの不自由な方などどのようなお客様にも安心してご搭乗いただけるような配慮も忘れてはならないと考えております。

貨物の運送も公共輸送機関としての大きな役割です。高速物流を充実させることにより、新たな地域の活性化に寄与していけると考えています。

大規模な自然災害が発生した時などの非常時においては、臨時便の運航、救援物資の輸送協力などを中心に、航空会社社の特性を最大限に活用した支援に取り組んでいます。

## Interview



常務取締役 執行役員  
CSR推進委員会委員長、地球環境委員会委員長、リスクマネジメント委員会委員長、コンプライアンス委員会委員長、広報室・総務部・法務部・環境・社会貢献部担当

**長瀬 眞** (ながせ じん)

Profile  
1950年生まれ。1972年ANA入社。2001年4月執行役員 秘書室長、2004年6月取締役執行役員 営業推進本部副本部長を経て2006年4月より現職。

これらの活動においては、常に安全なサービスの提供が大前提であり、これはすべてに優先するものであるという考えをグループ全員で共有しています。その決意の表明を「グループ安全理念」として明示しています。

## グループ安全理念

安全は経営の基盤であり、社会への責務である

私たちはお互いの理解と信頼のもと、確かなしくみで安全を高めていきます

私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により、安全を追求します

どのような対象に焦点を当てた活動を行っていますか？

**長瀬** 当社にかかわりのあるステークホルダーは、お客様、株主・投資家、従業員、取引先、地域社会など様々です。これらすべてのステークホルダーに対する責任を果たしていくというのがANAグループのCSR活動の基本であり、それを実践しています。

株主やお客様の声を事業活動に生かす仕組みは？

**長瀬** 株主の皆様をはじめ、私どもの事業にかかわるすべての方々とのコミュニケーションを大事にしたいと思っております。それぞれの声を誠実に受け止め、応える努力を継続することにより社会における役割を見出し、企業価値の向上に努めていきたいと考えています。

特に毎年数万件にもおよぶ株主の方やお客様からのご意見はデータベースに蓄積、分析し、商品やサービスの企画および課題の解決に活用する仕組みが構築されています。

環境へのかかわりもCSR活動に欠かすことができないと思いますが

**長瀬** 事業活動が地球環境に与える影響も考慮し、長期的な視野で事業が持続できるよう環境への負荷の削減にあらゆる面から取り組んでいます。天然資源と



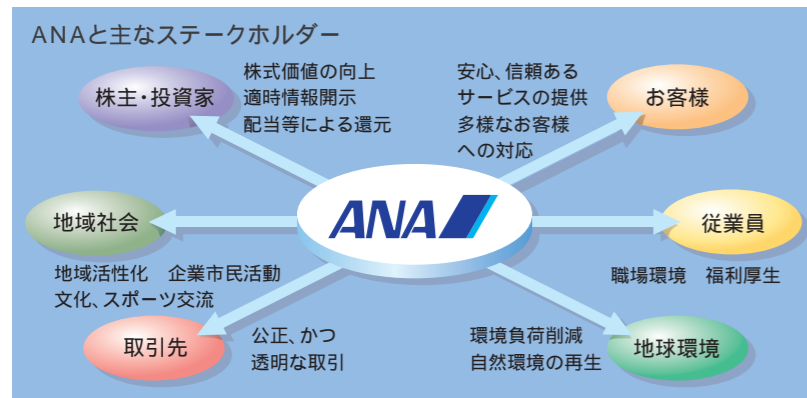
ボーイング787型機

清浄な大気に大きく依存している現在の航空機の運航を続けるためには、地球環境との共生を目指すことは大変重要です。燃料の消費が少ない最新鋭のボーイング787型機を積極的に導入するなどANAグループは、地球環境とともに、航空運送事業が持続可能な社会を目指しています。

地域社会とのかかわりの中で取り組むCSRについて教えてください。

**長瀬** 各グループ会社・支店で、地元根付いた様々な活動が行われています。全社的な活動の一例としては、毎年、全国の病院に入院されている方々に、社員手作りの「すずらん」の『押し花のしおり』をお届けする「すずらん行事」等があります。

また、今後の社会を担う若者に対して、航空事業や観光業に



関連する大学講座への社員講師の派遣や、小・中学生向けの「航空教室」を通じて航空機の基礎への理解を深める場を提供しています。そのほかにも、航空機の整備工場見学を通じて、すべての方に事業活動を理解いただける機会を設けています。

CSR活動のための社内の体制は？

**長瀬** CSR推進委員会を2005年に社長統括のもとに設置し、私が委員長として、委員を務める関連部門の役員とともに活動を推進しています。本業を通じた社会への貢献が基本であるということから特別に専門の執行組織を設けず、CSR推進委員会で決定した方針に基づき、各部署がそれぞれの役割を果たしています。

社員一人ひとりが、「グループ経営理念」を実現するためのガイドラインである「グループ行動基準」の遵守を基本とする行動を通じて、ANAグループのCSRを実践しています。

今後の取り組みについてはいかがでしょうか？

**長瀬** 持続的な社会との共生を目指す企業として、誠実な姿勢で継続して事業に励んでいきたいと思っています。あらためてCSRとして、特別な活動で着飾るのではなく、すべての活動への「誠実」な取り組みを着実に行うことが企業価値の向上につながり、ひいてはステークホルダーの皆様の期待に応えられると考えています。

こうしたANAグループのCSRへの取り組みを「CSRレポート」(右ページ参照)に取り纏め、2005年より発行しています。

地域社会とのかかわり 「西多賀養護学校の皆さん、大空へようこそ！」

～空を愛したひとりの機長と空に夢を描いた子どもたちの交流が43年の歳月を経て再現～

今から48年前の1958年4月、仙台空港近くの国立玉浦療養所(宮城県立西多賀養護学校の前身、当時「ベッドスクール」と呼ばれていた)に一羽の伝書鳩が迷い込みました。足輪からその鳩は東京の飼い主のもと判りました。



1963年4月29日遊覧飛行での麻田機長と子どもたち

子どもたちから「この伝書鳩を飛行機に乗せて東京に帰してあげて」と頼まれたことをきっかけに当社の麻田機長(当時)とベッドスクールの生徒たちとの交流が始まりました。

交流を重ねるうち、「寝たきりの生徒たちに療養所を空から見せてやりたい!!」

麻田機長の強い思いが5年の月日を経て会社を動かし1963年4月29日、50人の生徒たちを2組に分けて仙台上空遊覧飛行が実現しました。

「あっ、僕らの学校だ!」  
「仙台の街があんな小さく見える」

ふだん病室の窓から四角い空を眺めていた生徒たちは、大空を自由に飛びまわり大喜び。上空では歓声が途絶えることはなかったようです。その後麻田機長は当社初のジェット旅客機の訓練で渡米しましたが病に倒れ1967年9月逝去し、この遊覧飛行の記録も時の経過とともに当社から消えてしまいました。

2005年3月、西多賀養護学校の方が同校創立50周年誌編集のところ、古いスクラップから当時の新聞記事を発見、当社へ1963年に行われた遊覧飛行についてお問い合わせをいただきました。

当社ではあらためて社内調査を行うとともに故麻田機長の奥様のお話をお伺いしたところ遊覧飛行の様子が判明、「ぜひもう一度、故麻田機長の遺志を継いで生徒たちのために特別フライトを実現させたい!!」という声が社内に高まり、ボランティアで参加した当社グループ社員100名により『麻田'Sメモリアルフライト』の企画が43年ぶりに実現しました。

麻田'Sメモリアルフライト

2006年4月21日、西多賀養護学校の子どもたちの夢を乗せた飛行機が仙台空港を離陸。当日は43年前と同様に生徒たちは2便に分かれ、仙台から山形上空を旋回する約50分間の空の旅を楽しみました。

当初は緊張気味だった子どもたちの表情も雲の合間から見える眼下の景色を見るうちに緩み、機内には歓声が溢れてきました。出発ゲートでは当社グループのボランティアスタッフが準備した折り紙コーナー等のイベントエリアで、搭乗前後の時間も楽しんでいただきました。

当日はかつての遊覧飛行を実現した故麻田機長の奥様や、交流のきっかけとなった養護学校OBの方にも参加いただきました。



2006年4月21日遊覧飛行を楽しんだ宮城県立西多賀養護学校の生徒さん

このフライトに関する内容は宮城県立西多賀養護学校のホームページで紹介されています。  
<http://www.nishitaga.myswan.ne.jp/>

地域社会とのかかわり 今年もしあわせの花『すずらん』を患者の皆様へ!

～心を込めて作成した『押し花のしおり』にアーティスト一青窈さんの詩を添えて～

6月9日、ANAグループの客室乗務員や各空港の地上スタッフが日本赤十字医療センターをはじめ、全国52か所の病院などを訪問し、入院されている患者の皆様へ北海道千歳空港近郊のすずらんの『押し花のしおり』1万8,000枚をお届けしました。

白く可憐な花『すずらん』のプレゼントは、1956年から続けているもので、「しあわせ」・「幸福の再来」などの花言葉をもつ『すずらん』



に永く美しい生命を与え、永久に咲きつづけるよう、日本レミコ押し花学院(東京都新宿区 近藤レミ子学院長)の協力のもと、社員がボランティア活動により、一つひとつ心を込めて『押し花のしおり』としてお届けしています。

今後も患者の方々にお喜びいただける限り、ささやかな社会貢献活動として『すずらん行事』を続けてまいります。

第51回すずらん行事



ご案内

『CSRレポート2006』9月末発行予定  
『CSRレポート』全文は、  
<http://www.ana.co.jp/ana-info/ana/csr/index.html>  
からご請求、またはご覧いただけます。  
(表紙は2005年版です)

今後も「あんしん、あったか、あかるく元気!」をスローガンに地域社会に根ざした活動を行ってまいります。

ご参照 過去ANA VISIONのCSR関連特集  
[http://www.ana.co.jp/ir/kabu\\_info/ana\\_vision/index.html](http://www.ana.co.jp/ir/kabu_info/ana_vision/index.html)  
2004年6月第54期事業報告書 『感動品質』  
2004年9月第55期第1四半期報告書 『環境経営』  
2005年9月第56期第1四半期報告書 『安全がすべてに優先する』